

下野市立吉田東小学校

1 学校課題

研究主題 「主体的に表現し、伝え合う児童・生徒の育成」
～インタラクティブコミュニケーションを目指して～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

昨年度は、児童が主体的に表現し、一方通行ではなく相互の意思疎通を図る能力 (Interactive communication) を、主に外国語活動を通して育てることを研究主題に設定し、取り組んできた。これにより、より相手を意識して相手に伝わるコミュニケーション方法を習得することができ、自分の思いや考えをさらに発信する自己表現力が育成できると考えた。課題や教材、学習形態の工夫により、少しずつ自分の考えを伝える力や課題を追究することへの意欲が高まってきた。しかし、相手を意識し、より自分の考えが伝わる話し方の工夫 (声の大きさや抑揚、相手を引きつける話し方の工夫、構成力) などには、依然として課題が残る。また、語彙もさらに増やし、様々な言い方で相手に伝える力を身に付けていく必要がある。

そこで、今年度も引き続き研究を継続し、Interactive communicationのさらなる習得と定着を図ることとした。



4年 外国語活動
「This is my favorite place」

(2) 研究の仮説

児童が「やってみたい」と思う課題や話合いの場面を設定し、教師が個と個をつなぐスキルを身に付けることにより、児童一人一人が主体的に話合い活動に参加し、Interactive communication能力が向上するであろう。

3 研究内容

(1) 相手を意識した話し方、聞き方、リアクションの習得 (今年度の重点)

① 話し合う目的や視点の明確化

児童に相手意識を持たせるためには、まず児童自身が明確なめあてを持つことが大切である。そこで、単元全体を見通した明確なめあてとゴールの設定や提示の仕方の工夫を図り、何のためにその活動をするのかを確実に押さえる指導をした。また、振り返りの時間を確保し、次時の活動につながるよう意識させた。

② 系統的な目標の設定

低中高学年ごとに「目指す児童像」を設定し、それを実現させるための話し方、聞き方等の具体的な目標「学びのスキル」を明確化し、各教室に掲示した。日々の授業の中で、それらを想起させることにより、相手をより意識した活動になるよう指導した。

学びスキル 3、4年生	
「話す」	☆相手に分かりやすく話しましょう。 ○相手の反応を見て、より聞いている人に依るように話し方を工夫して話す。 (ちがう言葉を使って、相手に同意をもとめながら。)
「聞く」	☆自分の考えとくらべながら聞きましょう。 ○「しっかりと話を聞いてくれているな」と話し手に伝わるように、話す人の方をよく見て聞く。 (相手をしっかりと見て、リアクションする。) ○友だちの話を最後まで聞いて、自分の考えと同じところやちがうところ、しつもんや感そうを言う。また、不明な点を聞き返す。

学びのスキル (中学年用)

(2) 児童が意欲的に問題解決を図るための課題設定と話合い活動の工夫

Interactive communicationをさらに充実させるためには、児童が「相手に伝えたい」という思いを強く持たせることが必要である。そこで、児童が「やってみたい」「伝えたい」と思うような課題を設定したり、児童の思考を促すような教材を用意したりして、話合い活動の活性化を図った。また、児童同士それぞれの発言に気付かせ、自発的な深まりある話合いができるように支援する教師のコーディネートスキルを向上させることを目指し、教師同士が互いの授業を見せ

合い、学び合えるようにした。

(3) 授業研究の概略

日程	学年	教科等	単元名	課題追求のための手立てなど
9/ 14 (金)	4年	外国語 活動	「This is my favorite place」 【要請訪問】	・コミュニケーションに対する意欲を高める活動の工夫 ・意欲的に問題解決が図れる課題設定の工夫
11/25 (水)	5年	外国語科	「Where do you want you go ?」 【要請訪問】	・ICTを活用した活動と評価の工夫 ・意欲的に問題解決が図れる課題設定の工夫

(4) 授業以外での主な実践

	活動	講師
6/ 24(水)	講話 【要請訪問】 「新学習指導要領の実施に当たって」	下野市教育委員会課長補佐兼指導主事

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

・児童の「話すこと」「聞くこと」への意識が高まった。特に、「聞くこと」が身に付いてきており、相手をしっかり見てうなずいたり、リアクションしたりしながら聞くことができるようになってきた。また、「聞くといふことがある」という体験や、教師が教室での立ち位置を工夫すること等により、教師を介さず児童同士で発言をつなぐことができるようになってきた。それと共に、理解力が高まった。

・発言をした際、聞き手の反応を見て言い方を工夫したり、別の言葉で言い直したりする工夫が見られるようになってきた。特に外国語では、何とかして自分の思いを相手に伝えようとする意識が芽生えている。

・児童の意見をうまくつなぎ、児童主体の話合いをコーディネートしていこうとする教師の意識が高まった。また、教師が互いの授業を参観する機会を持ったことで、教師同士の話合いの場ができ、今までとは違う指導法に挑戦するきっかけが生まれた。



1, 2年英語活動「ハロウィン」

(2) 研究の課題

・低学年では、発表が好きと答える児童が多いが、学年が上がるにつれて自分の意見を述べることに自信がなく、発表を苦手と考える児童の割合が増えている。学級全体の中で発表することに抵抗がある児童については、まずは小グループでの発表に慣れさせ、自信を持たせる指導を継続していきたい。

・どの学年でも、教師を介して児童の話合いが進むことがまだまだ多い。より児童同士だけで意見のやり取りができるように、課題や話合いの場面の設定、教師の支援等をさらに工夫していきたい。また、児童同士で互いの発表の内容や表現の仕方を補い合ったり言い替えたりする活動を通して、自分の発言の精度を高め、友達の発言とつながっていく経験を積ませたい。

・興味を持って人の話を聞くことができない児童も多少見られるため、興味を持って取り組める課題を設定したり、ICTを活用して自分たちのコミュニケーションの様子を撮影したり、異学年、他校と交流する場を設けたりするなど、新しい取り組みにも挑戦していきたい。

・「よい話し方」「よい聞き方」「よいリアクション」等について、児童と確認する時間を定期的に設けたい。また、模範となるモデルを育て、児童が実際に見て模倣できるようにしていきたい。



5年外国語科「Where do you want to go ?」

